

Newsletter

No. 41 March 31 2022

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

チリ拠点長退任にあたり

平成29年2月より東京医科歯科大学チリ拠点長を拝命しております、医学部長の北川昌伸でございます。令和3年度をもって定年退官を迎えることになりました。チリ拠点の運営については皆様に大変お世話になりました。深謝申し上げます。

これまでの関係者の皆様が永年担ってこられたチリ拠点の活動の歴史を勉強させていただき、更にチリを含めた南米各国との交流が進むよう心掛けて参りました。チリとの交流に関しては、現在、田中雄二郎学長のご指導のもと大学執行部として若林則幸理事がご担当下さっています。素晴らしい指導体制の中で、チリ拠点の運営に携われたことは本当に幸せなことだったと感じております。チリ大学への出張でも多くを学ばせていただきました。

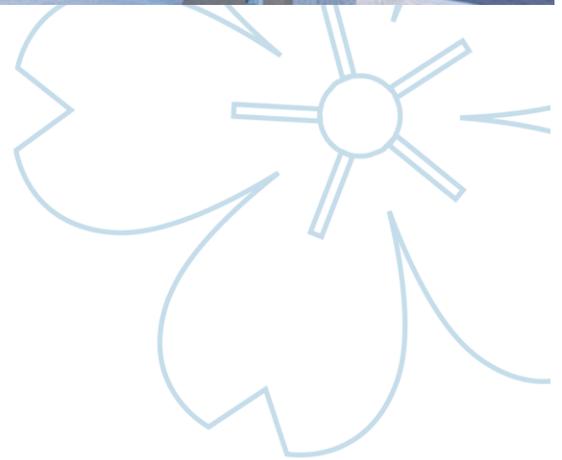
これからはチリ拠点を大学の戦略に沿った国際展開活動の要とできるよう運営する必要があると考えております。指定国立大学法人に指定された本学は、これまで充実させてきた学部内でのグローバル化教育をさらに発展させて、海外研究拠点を通じた教育・研究活動を展開していく必要があるでしょう。チリ拠点はジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)や大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)といった本学の重要なプロジェクトを行う上での要所として果たす役割や責任は非常に大きなものと考えております。プロジェクトの円滑な運営を行うとともにさらに今後は新たな活動の可能性の模索も含めて考えていく必要があると思います。

チリ拠点はこれまで多くの方々のご支援・ご協力の中で重要な業務を効率よく遂行して参りました。本ニュースレターでも現場の関係者を含め多くの方々のご活躍の様子が数多く配信されております。このような活動を支えてくださった田中学長、吉澤前学長はじめチリ拠点の運営に多大なご尽力をいただいた多くの方々、東京医科歯科大学、チリ大学でお世話になった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。末筆ながら、これからの大学の国際戦略の大成功とチリ拠点の益々の発展を祈念いたします。



左よりチリ大学ククルジャン医学部長、北川拠点長、オライアン国際関係担当部長

チリ拠点長 医学部長 北川昌伸



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDP	2
訃報	4

ジョイント・ディグリー・プログラム

ジョイント・ディグリー・プログラム(以下JDP)の2021年度10月入学の試験が本学及びチリ大学合同の学術委員会により行われ、当該プログラムに入学する学生が選出されました。本号では学生からの入学に対するメッセージをお届けします。

また、3月には毎年恒例の学部長会議及びFD研修が行われましたのでその様子もお伝えいたします。

2021年度10月入学の学生

ニコラス・オルティス・ロペス医師

共同博士課程の1年目、ニコラス・オルティスと申します。この度、東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻胃腸病内科コースへ入学する機会を得られたことを非常に光栄に思っております。

私は初年度の基礎医学の講義と実験室での研究により、充実した基礎科学の研修を受けております。本プログラムは、基礎研究のみならず臨床に関するプログラムも兼有しており、今後は臨床の分野における研修を楽しみにしております。

また、このプログラムを通して、胃腸病学分野においてのチリ大学と東京医科歯科大学の協力関係の構築に貢献できることを目標にしております。



初期研究研修を受けるオルティス医師

学部長会議



学部長会議の様子

日本時間3月9日(チリ時間3月8日)に本学及びチリ大学の学部長、JDP担当教授らで構成される学部長会議がWeb会議システムを用いて開催されました。本会議では、例年通り一年間のJDPの総括及び自己点検・評価報告書について報告が行われた他、プログラムの改善に焦点を当てた協議が行われました。

新型コロナウイルスの影響で大学間でのスタッフや研究者の往来が困難な状況が続いておりますが、今後の状況を見ながら新たな試みを実施していくことに関しても言及されました。

こういった会議を通し、両大学間のつながりを深め、今後のプログラムが充実したものとなるように協力して運営を進めてまいります。

4大学合同の教職員FD研修

年に一度、本学とチリ大学の教員の能力向上と最先端の知識を共有するために両大学間で実施されてきた教職員FD研修が、本年3月に本学とJDPを行っているチュラロンコーン大学、チリ大学及びマヒドン大学と合同で行われました。

昨年同様、新型コロナウイルス感染対策として講演者は各大学にて講演を行い、各講演者の講演動画を一本の動画に集約し、各大学にてオンデマンドで開催することとなりました。本年は新型コロナの世界的な感染拡大により、多くの授業がオンラインによる実施となったことを受け、“Online Environment and Evaluation”を共通のテーマとした講演が、各大学で行われました。

本学からは森尾郁子教授が“Challenges due to COVID-19”について発表し、チリ大学からはファン・パブロ・トレス准教授が“Impact of COVID-19 & Education: Chile Experience”というテーマで発表を行いました。

現在、本学を含めた4大学でJDPが進行しておりますが、教員間の認識や経験と共に各大学の取り組みを共有し、さらなる能力の向上につながる貴重な機会となりました。

FD研修ポスター

訃報

本学の中村恭一名誉教授が2021年12月30日永眠されました。享年87歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

中村恭一名誉教授のご逝去

中村名誉教授は1981年から15年の間、チリ、サンティアゴで開催された国際消化器病研修会において国際協力機構（以下JICA）の専門家として中南米の医師への指導にあたられ、本学の長きに渡るチリプロジェクトの歴史の中で大きな功績を残されました。この事績が大きく評価され、1990年にはチリ政府より日本医学会で初となったベルナルド・オヒギンス勲章をJICA専門家として派遣された医師らとともに受章しました。

中村名誉教授の指導を受けたチリを含む中南米の医師らが、中村教授の遺志を受け継いで今後も中南米の消化器病理分野での活躍・貢献に繋げていくことを願います。

当時、中村名誉教授と親交の深かったチリ側のカウンターパートでありご友人でもあるペドロ・ジョレンス医師からは、今回の悲報を受けて哀悼の意が示されました。

最後になりますが、皆様とともに中村名誉教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



1984年ブラジル国際学会（写真提供: JICAチリ支所）
左よりジョレンス医師、故・中村名誉教授、マルティネス医師



2011年来智時の様子
左よりジョレンス医師と故・中村名誉教授

編集後記

チリでは3月11日に政権交代が行われ、36歳の若い大統領による今後の政策が注目されています。

就任に先立ち、日本の小田原潔外務副大臣から「ポケットモンスター（Pokémon）」のぬいぐるみが新大統領に贈られ、当地では話題となりました。

チリと日本の国家間で良好な友好関係が継続され、あらゆる分野で更なる発展が遂げられることを願います。（早川美貴）

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.41 March 2022

【発行日】2022年3月31日

【制作】Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp

Newsletter

No. 42 September 30 2022

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

チリ拠点長就任にあたり

この度、北川昌伸前拠点長より引き継ぎ、東京医科歯科大学チリ拠点長を拝命致しました絹笠祐介です。東京医科歯科大学大学院消化管外科分野教授ならびに、東京医科歯科大学病院大腸肛門外科科長をしております。

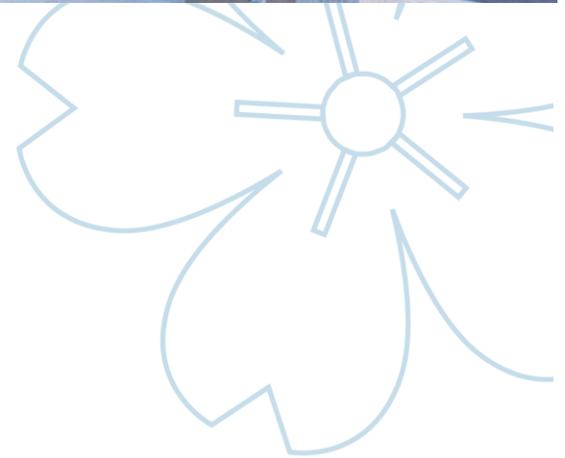


私自身はチリ大学とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)において、前副拠点長の植竹宏之教授の退職に伴い、昨年より会議に参加させて頂いておりました。一方で、チリの皆様との直接的な交流経験もなく、月に一度のテレビ会議に参加している委員の一人に過ぎませんでしたので、この度の拠点長の拝命には不安が増すばかりでございますが、実務上では長堀准教授ならびに岡田国際医療部長が中心となってくださり、また米田様をはじめとする統合国際機構の皆様のサポートもあり、多くの仲間と共にチリを含めた南米各国と本学との交流が更に発展するよう、務めて参る所存です。

御存知の通り、この2年間はCOVID-19感染症が、このような国際交流には大きな壁となっております。一方で、このような状況であるからこそ、オンライン会議等、新たな交流ツールの発展もめざましく進歩しています。外科の領域においては、我が国でも遠隔手術や遠隔手術指導の技術開発が進み、既に遠隔手術ガイドラインも策定されております。個人的には、是非チリの手術室と本学を繋げて、ロボット手術の指導を行いたいと思っております。

地球の裏側という距離のディスアドバンテージを解消する新たな環境が構築されつつあり、また、田中学長並びに森尾統合国際機構長、秋田JDP推進部門長の強力なリーダーシップのもと、今後ますます南米と本学の交流が発展していくものと固く信じております。

チリ拠点長
大腸肛門外科科長・消化管外科分野 絹笠祐介 教授



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDP	2
報告	4

ジョイント・ディグリー・プログラム

今号のジョイント・ディグリー・プログラム(以下JDP)では、客員教授付与の様子、学術委員会のチリ側責任者の交代と今後の新体制についてご報告いたします。

客員教授付与



マヌエル・ククルジャン医学部長(本年5月時点)

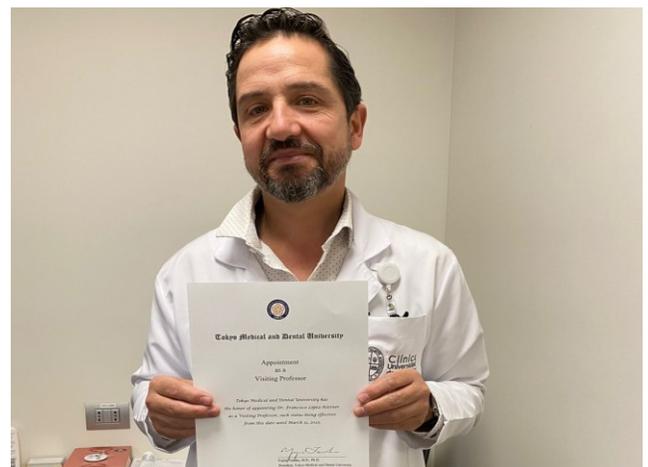
例年通り本年4月、本学の活動に貢献していただいている関連機関の方々へ客員教授が付与されました。

本学との繋がり深いチリ大学のマヌエル・ククルジャン医学部長(本年5月時点)、ミゲル・オライアン教授、フランシスコ・ロペス准教授へ客員教授付与証をお手元へお届けしました。

現在進行している当該プログラムへの更なる協力関係の強化に加え、コロナ禍により延期・中止となっていた本学学部学生のチリ派遣(プロジェクト・セメスター)、チリ大学学部学生の本学への受け入れ等が完全に再開した際に、活発な学術交流が行われることが期待されます。



ミゲル・オライアン教授



フランシスコ・ロペス准教授

チリ大学医学部長交代と新体制

7月1日、チリJDPの責任者であるオライアン教授がチリ大学医学部長に就任されました。オライアン教授には当該プログラムの開設当初からチリ側の責任者としてご尽力いただきましたが、今後は医学部長というお立場で当該プログラムを支えていただくこととなります。

また、この医学部長就任に伴い、前医学部長のククルジャン教授がJDP学術委員会に加わり、チリ側の責任者の役割を担っていただくこととなりました。

これに加えて、現在JDP学術委員会メンバーの一人であるファン・パブロ・トレス准教授は、同月に副医学部長に就任されましたが、これまでと変わらずJDP学術委員を継続されます。

このように7月よりJDPに関わるチリ側の委員会メンバーが再編成され新体制となり、これまで以上に当該プログラムが円滑に展開していくことが期待されます。



医学部長選後のオライアン新医学部長



肩を組み合わせククルジャン前医学部長(左)とオライアン新医学部長(右)

報告

サン・ボルハ病院(日智消化器病研究所)の復興状況

過去のNewsletterでもお伝えしましたように、本学との間に40年以上の歴史のある日智消化器病研究所が位置するサン・ボルハ病院で2021年1月大規模な火災が起きました。

その後、約15カ月経過した4月、仮設の日智消化器病研究所がサン・ボルハ病院敷地内に完成しました。2階建ての1階スペースは受付、患者待合室、内視鏡ブース5部屋、リハビリルーム6部屋で構成されており、COVID-19患者の対応を考慮し陰圧室となっています。また2階スペースには、同研究所スタッフ・研修医の事務スペース、小規模の講習会やカンファレンスが可能な会議室が完備されています。

このように仮設とはいえ、患者に医療を提供するのに十分なスペースと医療器具を備えていることから、パンデミックと火災の影響で待機状態であった患者の検査及び治療の再開をすることができました。

さらに8月、同研究所の医師・看護師らが集まり、今後の研究所の展望を協議する会合が開かれました。困難な状況から立ち上がり、今後さらに規模が拡大して、地域の医療に貢献できることを切に願っております。



内視鏡室



日智消化器病研究所正面入り口

編集後記

当地では9月4日に新憲法草案に関する国民投票が行われ、反対多数で否決となりました。この投票結果をうけて、新たな新憲法改正プロセスの制定が進められると共に9月6日内閣改造が行われ、保健大臣を含む大臣6名の入れ替わりが発表されました。

現大統領が就任当初より力を入れてきた公平な医療の実現の一環として、9月より公的医療保険(FONASA)加入者への完全無料化が始まりました。

新たな保健大臣による、さらなる今後の政策が注目されます。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.42 September 2022

[発行日] 2022年9月30日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp